

## 2015年度コミュニティ福祉学研究科科目、院生による科目紹介

科目名：福祉人間学研究 2  
科目担当者名：小長井 賀與  
紹介文執筆院生：林 和秀

現代の日本では、本学部の名前にもある「コミュニティ」を地域の中で形成することが、それぞれの地域の課題であり、そこに住む人々の豊かな生活につながるものとされています。そこでは「どのように」そして「どのような」コミュニティを作っていくのか、ということを考えることが不可欠です。今年度の授業では、社会的排除の問題にかかわる、日本のこどもの貧困やひきこもり、いじめの実情を認識。そして、北アイルランドでの民族紛争の解決や犯罪者の地域生活への復帰を支える「修復的司法」の考え方を学びました。

そこに住む子どもたちの貧困やひきこもり、いじめを「個人的な問題」としてとらえていくコミュニティを作るのか。犯罪者をコミュニティがどのように受け入れて、また受け入れないという選択をしていくのか。日本に「ある/あった」コミュニティに根差した価値観とはどのようなものなのか。犯罪や排除の問題を通して、最終的には自分自身がどのような生き方をしていくのか、ということを考えることができます。先生の人柄もあり、質問や議論がしやすい雰囲気の中で、一緒に作りあげていくような授業です。

科目名：ソーシャルワーク研究 4  
科目担当者名：飯村 史恵  
紹介文執筆院生：林 和秀

福祉の仕事は「大変」「給料が安い」「熱意や優しさがなければ続かない」…そんなことを言われ続けて久しい。しかし日本は超高齢社会へと進み、いままで少数だった福祉関係者が、介護保険制度の開始とともに増えています。今年度の授業では、知識として戦後に始まる社会福祉協議会の歴史から、介護保険とその元となる社会福祉基礎構造改革と契約制度への転換そして権利擁護と第三者評価制度を学びました。福祉制度が少しずつ特殊から一般へと転換していく中で、普遍的な専門性よりも熱意ややさしさに依存した「特殊」な仕事としての福祉という認識は日本には広く根強く存在しているように思います。その中で、これからの日本の社会福祉の制度設計や専門職の専門性の在り方はどうあるべきか。社会福祉組織の生産性をどこに求め、どのような価値観を持った社会を創っていくのか。「福祉マネジメント」をキーワードにしながら先生の講義や各自の発表を通して、これらのことを深く考えていくことができる授業です。

**科目名：コミュニティ政策研究2**

**科目担当者名：鈴木 弥生**

**紹介文執筆院生：R.I**

コミュニティ政策研究2の授業では、発展途上国の社会開発を扱っています。途上国での社会開発の意味を考え、市民社会の台頭の一つの例として BRAC (Bangladesh Rural Advancement Committee) の理念や活動を、英語資料やヒヤリングを通して学びます。英語の資料を用いて学ぶことは、一つ一つの単語の使われ方から、その背景にある概念や状況を知ることができます。また、「貧困」とは何を意味するのか、本当の意味のエンパワーメントとは何か、そのためにはどのような理念に基づいた活動が必要なのか、などを理解し社会開発の意義についての見解を深めることに役立ちます。

**科目名：スポーツウエルネス研究2**

**科目担当者名：濁川 孝志**

**紹介文執筆院生：奇二 正彦**

この授業は、映画、TEDのようなプレゼン、ドキュメンタリー映像などを題材としてよく観ます。そこに登場する人たちは、それぞれに自分の能力を最大限に引き出して社会的地位を確立した、版画家や、町工場の社長や、リンゴ農家だったりします。どの登場人物にも共通していることは、様々な挫折や失敗を繰り返しながらも、自分を信じ、使命感を持って活動し続けているということです。どうやら、そういった人たちに共通していることは、それを支える価値観にあるようです。それは物質的な成功ではなく、スピリチュアルで、時に宇宙的と言っている世界観 (cosmology) でもあります。一見すると非科学的とさえ思われるこうしたことを、真面目に取り上げるこの授業の意図は、それが科学的に真実かどうかを検討することではなく、人間が現代文明の中で失ってしまった、本来持っていた力を思い出す作業のように感じます。

結局この授業では、“より良く生きること”すなわち“ウエルネス”とは何を意味するのかを、深く考察しているのだと思います。その意味では、自分のこれからの生き方、そして研究テーマと関連する「スピリチュアルな価値観」を考えるうえで、とても意義のある授業だったと考えます。

**科目名：ソーシャルワーク研究 5**

**科目担当者名：芝田 英昭**

**紹介文執筆院生：H.S**

本授業では、トマ・ピケティの「21世紀の資本」を輪読しています。本書籍は、歴史的なデータをもとに、現在の所得と富の格差が、格差が激しかった第一次世界大戦以前の水準に近付いていること、さらには上位1%の富裕層に富が集中していることを論証しています。

このような格差は、資本収益率が常に経済成長率を上回り続ける場合に生じるので、相続などで多くの資産を有している人は、その財産を一般的な労働者よりも急速に増やせるのです。つまり、富める者は富め、貧しい者は貧しいままなのです。

そこで、このような格差を是正するためには、累進課税制度を導入し、高所得者からより多くの税金を徴収し、富と所得の再分配を行うべきなのです。この再分配というのが生活保護や医療・介護保険といった社会保障給付です。それゆえ、格差の仕組みや原因を紐解き、格差是正の解決法を学ぶことは、現在の社会保障制度上の矛盾や問題点を読み解く上でも非常に重要なのです。

**科目名：スポーツウェルネス研究 3**

**科目担当者名：沼澤 秀雄**

**紹介文執筆院生：羽鎌田 直人**

この講義では、主に最新のトレーニング科学やコーチングに関する海外の文献を一人一章担当し、翻訳したものを講義の中で発表します。今年度は、国際陸上競技連盟発行の指導者用ガイドブックやパフォーマンス向上のためのトレーニングに関するテキストを使用しています。具体的には、青少年期アスリートに対するトレーニングや筋力トレーニングで得た筋肉のスピード能力への変換、アスリートに必要な栄養学など、実用的な内容も多く扱っています。受講生それぞれの専門分野の最新の論文に触れることができるため、非常に有意義な講義となっています。また、講義の最初には教員と各受講生が一週間の動向を報告し合う時間を設け、スポーツに関係することから日常の些細な出来事まで共有できる大学院生の交流の場としても機能しています。